

カトリック六甲教会 教会報

2015

2

No.518

「福音の喜びを持って、この世界に目覚めを！」

— 奉獻生活の年にあたって —



奉獻生活の年
2014.11.30~2016.2.2

永田 s.a (援助修道会 六甲修道院)

・「暗闇に住む民は大きな光を見、死の陰に住む者に光が射し込んだ」(マタ4/16)

ご存じのように今年には阪神淡路大震災後 20 年、東日本大震災後 4 年、太平洋戦争敗戦後 70 年、官民挙げての復興作業は懸命に行われていますが、実のところ、心の復興にまではまだほど遠いものがあります。わたしたちキリスト者はマッチ一本の光でいい、その一隅を照らす福音の光、キリストの光を灯す存在」となっているのでしょうか。

・昨年教皇フランシスコは「教会憲章」および「修道生活の刷新・適応に関する教令」の布告 50 周年を記念し、2015 年を「奉獻生活の年」と定められました。(2014 年 11 月 30 日~2016 年 2 月 2 日主の奉獻の祝日まで)。これはいわゆる司祭・修道者・在俗会員だけに該当する勧めなのではないでしょうか。教皇の、キリスト信者すべてに「この世を目覚めさせましょう！」と呼びかけたい切なる思いがそこにあるのではないのでしょうか。そこには奉獻生活のエキキュメニズムにまでも心を広げるよう提案されています。

・そもそも奉獻生活は原点では、福音をつたえるため固有な生活様式に身を置いて、キリストの傍らで生き、その時代のしるしを信仰の目で読み取り、教会の必要に創造的に応じる人々を聖霊の導きで招く神の業として生まれました。時代を経るに従い、別の側面も見えてきます。イエスの最初の 12 弟子たちや、初代教会を特徴づけていたのは、共同体の交わりです。一つの心、一つの魂、主と共にいる喜びを再現しようとしていたことです。対立、異文化の中での困難な共存、弱者にたいする優位性、貧富の差、不平等などの存在する社会において互いの人間性、その尊厳を尊重し、各々に与えられている恵みを分かち合い、兄弟愛を生きる共同体を理想としていました。現代、召命の減少や、高齢化が顕著であって、世の経済危機、国際化からの挑戦、相対主義(たとえば宗教はどれであってもいい・等)、差別と社会的無関心、利己主義などの多くの困難に直面している時代だからこそ、主が下さった希望をもって未来に向かう証し人を主は望んでおられるのです。福音を生き、キリストに従う喜びと美しさが透けて見える生き方が魅力となって、人々に未来を照らす場、教会が交わりの家となること、真実の対話がなされる共同体となることがどれほど大事でしょうか。

・「教会は魅力的でなければなりません。この世を目覚めさせましょう！」と教皇は呼びかけます。他方、彼は修道者に向かって「修道者は罪びとであり、預言者でもある。」と言われるのです。では奉獻生活者とはどういう人なのでしょう。罪のない聖人が汚れた世から無縁の存在なのでしょう。

福音の喜びはイエスと出会った人々の心と全生涯を満たします。わたしたちは英雄的な行為や卓越した言葉を述べるよう招かれているわけではありません。自分が愛されている実感や、救われている感謝から生きる喜びを証しするよう呼ばれているのです。（教皇フランシスコ奉獻生活者への書簡「喜びなさい」より）

神はあなたに呼びかけて言われます。『あなたはわたしにとって大切です。私はあなたを愛し、期待をかけています。』喜びはそこから生まれます。それは「イエスが私を見つめたときの喜び」であり、自分の生涯、選択、信仰への忠実さ、幸せな貧しさ、生粋の愛をともにすることです・・・このイエスからの召命を通して再生が始まります。信仰とは私たちに個人的に問いかけるみことばへの、私の名前と呼んでくださる「あなた」への応答であり、自由な賜物です。（同上書簡）幼児洗礼であろうと、成人洗礼であろうと私たちキリスト者は皆、このイエスが私を見つめて下さった時の喜びを人生のどこかで体験しているではありませんか。人との出会い、祈り、聖書、秘跡、出来事、挫折、ゆるし等を通して・・・それはすべての信仰者の心の深い所の体験だったでしょうから。

・こうした主との出会いは私たちを動かし、自己中心の生き方から脱するよう呼びかけます、キリストと教会への奉仕に向かって。罪を犯さない人はいませんし、皆間違いを犯します。自分の弱さを認めなければなりません。神は自分が弱く、罪人であると認める人を召し出します。赦され、救われた人として、その喜びを生き、分かち合って生きるのが奉獻生活者なのです。主の憐れみと優しさの証し人として求められています。くり返しますが、再生は、主との出会いと主の呼びかけから生まれ、聖霊の賜物であって兄弟愛として現れます。

・奉獻者に求められるもう一つのこと、自分自身からの脱出です。「人々を探し、出会うために門から出ましょう！」とも教皇は呼びかけておられます。自分が閉じこもっている安泰から出て、すべての希望を失った人々、困窮している家族、放置されたこどもたち、未来を持たない若者たち、病人や見捨てられた老人たち、心の空虚な大資産家たち、人生の意義を探している人々、神を渴望している人々のところへ赴き、主の優しさと憐れみから出る喜びをもたらしましょう。（使徒的書簡教皇フランシスコ『奉獻生活の年にあたって』より）自分にとって居心地のよい共同体の中に閉じこもってはいませんか、と。

・これを書いている私自身、実のところ約一年前に東京から六甲に療養に来ている身で、さまざまな感染症の恐れと疲れから身を守るために人込みに出ないようにしていて、教会にさえ出向くところではない有様です。オッカナビックリ、時々硬い甲羅から首を出して周りを窺っているカメのように自分を感じます。しかし心は少なくともイエスの求めるところに、もっと開きたいですし、その力を祈り求めています。そういう私のために修道共同体の仲間が熱く祈ってしてくれることも深い感謝のうちに実感しています。そして主と兄弟とともにある幸せな貧しさを私は本当に日々生きているだろうかと自分に問う毎日でもあります。実際、信仰者が福音の喜びを生きようとしているかを互いに問いかけあうことができる祈りと対話のある共同体生活は奉獻生活者にとって大切だと思います。

・主との出会いの喜びに生きる生活全体を捧げて、それを誰かに分かち合いたい人は皆、主への奉獻生活者といえるのではないのでしょうか。今年「奉獻生活の年」に当たってこの喜びの分かち合いへと私たち全てのキリスト者は招かれていることを知ることこそ、まず第一の福音の喜びなのではありませんか。

ローマ教皇庁は、「教会憲章」及び「修道生活の刷新・適応に関する教令」公布 50 年にあたる 2015 年を「奉獻生活の年」（2014 年 11 月 30 日～2016 年 2 月 2 日）としました。



ナルドの花たより



家庭はどの国にとっても一番の宝です。社会にとって隅の親石であるこの家庭を守り力づけるため、みんなで働きましょう。

The family is the greatest treasure of any country. Let us all work to protect and strengthen this, the cornerstone of society. (2015/01/17)

「共に・苦しむ」神、その「私たちと共に苦しむ」姿は、私たちの奮闘、苦悩を意味ある、価値あるものにします

The com-compassion of God, his suffering-with-us, gives meaning and worth to our struggles and our sufferings. (2015/01/18)

神の家族の一員、キリスト者である私たちは、助けを求めている人のもとに行き奉仕するよう招かれています。

We who are Christians, members of God's family, are called to go out to the needy and to serve them. (2015/01/18)

あらゆる命はたまものです。 Every Life is a Gift. (2015/01/22)

愛を実践することは、福音化のための最良の方法です。

Practicing charity is the best way to evangelize. (2015/01/25)

カトリック中央協議会 教皇フランシスコのツイート（邦訳）より



《行事報告》

「祈りと音楽の集い」

～クリスマス音楽の集い～ (12月23日)

クリスマス・イブを翌日に控えた 12 月 23 日の午後 2 時から、主聖堂において「クリスマス音楽の集い」が開かれました。女声合唱 Cantate Domino によるグレゴリオ聖歌と讃美歌、ヴァイオリンとオルガンによる暖かい伴奏に乗って歌われた美しいアリアやマニフィカート、オルガン独奏やバッハのフルートソナタと



いった器楽曲、ヘンデルの「メサイア」第2部から美しいアリアを含む4曲、そして聖歌隊による明るいクリスマス・キャロルといった多彩な音楽が演奏され、キリストの降誕を音楽で祝う素晴らしい時間となりました。最後は会衆のみなさま全員で「来たれ友よ」を合唱し、羊飼いたちが大切な羊を置いてまで救い主を拝みにきたように、私たちが全てを置いて救い主であるキリストに自ら会いに行くという積極的な信仰と希望を新たにしました。会衆のみなさまが寄附して下さった献金額は 教会を通じて役立てられます。本当にありがとうございます。次回は2月22に四旬節の準備となる「祈りと音楽の集い」が開かれます。また、みなさまと共に、素敵な祈りの時間が持てますように。



(音楽チーム)



新成人祝福式 (1月11日)

成人おめでとう!!

成人式を迎えられた皆様をご紹介します。



新成人のお名前

クリスティン 逢坂 / マリア テレジア 井上
 ベルナデッタ 片山 / ソフィア バラ 中島
 ルチア 松井 みちる / ヨセフ大田
 藤本 / 植村 以上 8名。

皆様のご活躍を期待しております。

新成人の感想

この度は新成人のお祝いをしていただきましてありがとうございました。

六甲教会に来るようになってもうすぐ5年です。受験期を除いて毎週のように来ていた六甲教会で、大人の方々、同年代の友達、教会学校のリーダー方、中高生会のみんな、そして教会学校の子どもたちと、様々な方と「つながり」を結ぶことができ、他ではできなかったような貴重な経験をたくさんさせていただきました。

これからも、このつながりを大事に、与えられる人から与える人へ、伝えられる人から伝える人へ、成長していきたいなと思います。

これからもよろしく願いいたします。

(藤本)



本日は皆さまに新成人の祝福をしていただき大変嬉しいです。

振り返れば、六甲教会は私の人生にとってかけがえのないたくさんの素晴らしい経験と素敵な出会いを与えてくれました。六甲教会には本当に感謝しています。ありがとうございます。

これから先の人生がもっと豊かになるように、そして、誰かのため社会のために何かを一生懸命尽くせることが出来る素敵な大人になれるように学生のうちに色々な事を経験し、またたくさん勉強したいです。中高生会のリーダーも頑張りたいと思います。

(逢坂)



教会新年会 (1月11日)

《この教会の青年に期待したい!!》

時間の経過は最近特に早く感じる。今年も明けて11日。恒例の新年会が開催された。 本年は東灘北1地区が幹事役となり、約200名強と推される人が参加した。アルフレッド神父の挨拶に始まり、堀川尚嗣氏の流麗な司会で、会は早々に盛り上がった。今回も本年成人を迎えた7人も参加し、その若いエネルギーは大いに会場を沸かせた。



昨年末のクリスマス・イブの日、小生が阪急御影駅で数人の女学生が会話しているのに遭遇した。そこから、「めりくり、めりくり」と聞こえて来た。年末のことだから、小生は「ああ 日めくりカレンダー」のことでも話しているのかなー?と思ったが、それは「メリークリスマス」と言っていたのだ。最近の若者のことば(半疑問、尻あがり口調、省略語)、社会で使われる言葉(スマホ、ガラケー、等など)には辟易している。勿論小生世代の「アレ、コレ、ソレ」も困ったものだが……。

しかしながら、今回の成人者のスピーチは、違っていた。こうした時代の風潮に流されない立派なスピーチを聞き、若者観を若干正することになった。今回のスピーチは、7人が7人それぞれ独自の考えを、それも臆することなく堂々と陳述した状況はただ感心するばかりであった。

少し、考えた。これらの7人がこのように逞しく、健全に育って来たのは、恐らく家庭での親の教育等に帰するところ大なんだろうが、ひょっとすると、教会学校で過ごしたこと、又そこでのリーダーとしての活動をとおして育まれたのではないか。彼らがますます成長しこの世の中を変えていって欲しいと、大きな希望を抱いた。

パーティーは、美味しい料理に、楽しいゲーム、混声合唱団の合唱、楽しい会話で大変盛り上がりおひらきとなった。

今年も、教会一丸となり、それぞれの信仰と義を深める場とならんことを切望し、最後に今回の新年会をお世話していただいた東灘北1地区の皆様に感謝を申し上げて報告としたい。

(船井)



大阪教区主催 阪神・淡路大震災20周年追悼祈念ミサ(1月17日)

今年、阪神淡路大震災発生からちょうど20年になるということで、従来は各小教区毎で独自に行ってきた追悼祈念ミサが、大阪教区主催で行われることになり、1月17日、神戸中央教会において、前田万葉大司教、松浦悟郎補佐司教、神戸地区10人の司祭による共同司式で捧げられました。

あの時を起点に、今日までの20年間、さまざまな記憶を胸にして、神戸中央教会へ集まり、神戸地区四ブロックの代表が、「亡くなられた方々への追悼」、「東日本大地震で被災された方々へ」、「復興から取り残された方々へ」、「これからの取り組みへの決意」をテーマに共同祈願を唱え、参加した聖堂いっぱいの方々は、心をひとつにして祈ることが出来ました。

暗い中から何ヶ所にも上がる炎と黒煙、倒壊したビル、木造家屋、一階部分がへしゃげたマンション、倒れた高速の高架橋、地上に落ちた電車、枕木とレールが剥き出した線路、避難所での焚き火・炊き出し、線路を歩く人の列、ブルーシートの屋根、仮設住宅、復興住宅、…。

放映された特集番組による当時の映像を見て、今では当たり前になっている周りの風景が、実際には徐々に復興され、移り変わってきたことを改めて思い起こしました。

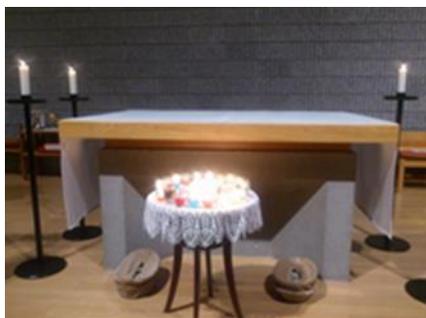
説教の中で、前田大司教が、現在の心境を「正月に生きる命や二十年」という句にされ、そこに

込められた震災の体験は、信仰と同様、家族の中から『語り繋いでいかなければならないもの』と諭されて、新たな気持ちで帰途に着きました。

なお、ミサ中の献金については、東日本大地震支援のために、大船渡プロジェクトに送られます。
(小教区評議会副議長 小林)



六甲教会 阪神淡路大震災追悼祈念ミサ（1月17日）



祭壇前で静かに燃えるローソク

1月17日（土）19時「阪神淡路大震災祈念ミサ」がアルフレド神父司式により行われました。いつもの夕ミサより参列者も多く、祭壇前に飾られた彩のローソクが震災で亡くなられた方々の霊をお慰めするかのよう揺らいでいました。私はその炎を見ながらふと20年前のことを思い出していました。震災当時はまだ旧聖堂も残っていて、新聖堂が建築の最中でした。

震災の後、当時壮年会会長だった私は、壮年会の皆さんと手分けして、連絡の取れないメンバーの安否確認のため個人宅を訪れましたが、家屋が全壊して居場所が分からない人もい

て近くの避難所にも探しに行ったりしたこともあります。また、車のある信徒は各地から応援に駆けつけたカトリックの医師団を滞在本部から避難所まで送迎するお手伝いをしていました。

あの時はみんな団結し、協力し合って互いに支え合い、大学生たちは松村助任司祭（当時）とともに壊れた信徒の家のあと片付けなどを手伝ったりしていました。皆さん何か人の役に立ちたいと言う使命感に燃えていたように思います。あれから20年、今、私は高齢化した教会において、災害への対応も見直さなければならぬ時期がきているように思うのです。（蛭田）



建設中の新聖堂と旧聖堂



《各部だより》 各専門部会の活動をお知らせいたします。

📁 地区会

2月1日（日） 地区役員会

📁 社会活動部

2月6日（金）初金ミサ後 連絡会 第2会議室
各ボランティアグループの方は
ご出席をお願いします。

（次回の連絡会は5月予定）

📁 三日月会

2月16日（月）14:00 ミサと懇親会

📁 教会学校

3月14日（土） 終業式・卒業式、卒業合宿
（～15日）

📁 施設管理部

2月22日（日） 部会

📁 典礼部

2月15日（日）聖体授与の臨時の奉仕者の集い
28日（土）典礼部会

📁 広報部

2月28日（土） 教会報3月号印刷

《 お 知 ら せ 》 教会のみなさまに知って頂きたい活動やお知らせです

★社会活動部より★

2月4日(水) 10時 手芸の集い ☆第1・2会議室 どなたでも参加ご自由です。

15日(日) 10時ミサ後 ふれあい広場 イグナチオ ホール お弁当・手芸品等の販売

23日(月) 9時半 ともしびケーキづくり イグナチお台所

※2月の炊き出しはお休みです。



★ 2015年四旬節中の予定 ★

- 2月18日(水) 灰の水曜日 (大斎・小斎)
灰の祝福とミサ 7:00 10:00 19:00
- 22日(日) 洗礼志願式
- 27日(金) 十字架の道行 10:00
- 3月6日(金) 十字架の道行と初金曜日ミサ 10:00
- 13日(金) 十字架の道行 10:00
- 20日(金) 十字架の道行 10:00
- 27日(金) 十字架の道行 10:00

注意 2014年度教会のしおりの予定と一部異なります。ご注意ください。



共同回心式変更のお知らせ

3月22日(日)10時ミサ中に共同回心式を予定していましたが、典礼(ミサ)本来の姿を尊重すると共に、ゆるしの秘跡に一人ひとりが余裕を持って与えるために、今年の聖なる三日間の心の準備としてのゆるしの秘跡は、一斉ではなく、四旬節中、土曜日18時30分、日曜日7時15分と9時30分に時間を設けますので、早めにお与り下さい。

祈りと音楽の集い ～四旬節の祈り～

2015年2月22日(日) 午後2時より

カトリック六甲教会 主聖堂

今回はソプラノの浅野さんと、香里教会の谷崎さんの二重唱とオルガン曲で、四旬節の音楽をお聴きいただきます。

ソプラノ：谷崎/ 浅野 オルガン：三浦/ 松井

J. S. バッハ

☆ プレリユード ハ短調 BWV 546

☆ オルガン小曲集より BWV 618~622 四旬節の賛美歌

フランソワ・クーブラン

☆ オルガン・ミサより

☆ ルソン・ド・テネブレ (エレミアの哀歌) より 第3の朗読



〈墓地つこたより〉

【教会主催の墓参のご案内】

教会主催の墓参は春秋、年に2回あります。

墓参は墓参日(主日)の10時のミサ後、11時20分頃長峰霊園 教会共同墓地で行われます。墓参の祈り、納骨式の司式は主任神父様がいます。個人墓地の利用者も共同墓地の前で式に参加をします。式後、神父様は全ての個人墓地を巡り祝福をされます。各々の墓地にてお待ちください。

次回の教会墓参は2015年3月8日です。



お願い：墓参のときの供花や供物はお参り後お持ち帰りください。そのまま放置されますと枯れてごみになってしまいお墓の品位が落ちてしまいます。お持ち帰りのお花はご自宅で活かられて故人を偲ばれてはいかがでしょうか。 (墓地委員会 S F)



みんなの広場

「水を飲ませてください」

このところ世界各地から聞こえてくるニュースに心を痛めています。

政治的なことはここでは語りたくない。情報も知識も足りないので、人に説くほどに語る資格もない。だけれども心のあり方は落ち着かせたい。

そんな時、糸口を今年の「キリスト教一致祈禱週間」のための小冊子に見出した。

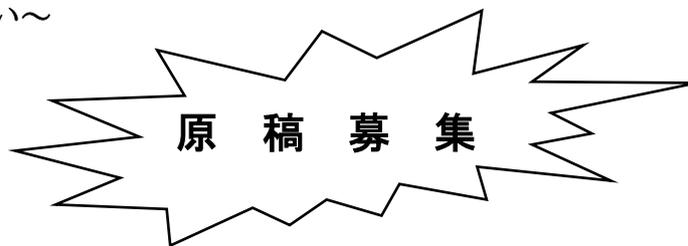
今年のテーマは「イエスは『水を飲ませてください』と言われた(ヨハネ4-7)」

自分自身のアイデンティティーを知り、理解している人がいかに重要であるかということ。そのような人は他者のアイデンティティーを脅威とみなさない。脅かされていると感じなければ、他者と補い合うことができる。人間であれ、文化であれ、孤立しているだけでは十分ではない。他人の井戸から飲むことは、他者のあり方を経験する第一歩である。(テーマの解説より)

先ごろのパパ様のツイート『共に・苦しむ』神、その『私たちと共に苦しむ』姿は、私たちの奮闘、苦悩を意味ある、価値あるものにします。The com-compassion of God, his suffering-with-us, gives meaning and worth to our struggles and sufferings.」に励まされ、神様が共に苦しんで下さるのなら、もう少し、小さい自分ではあるけれど、世の中のできごとについて、私の周りに起こっていることについて、注意深く、心を配り、苦しみ、祈っていこうと思います。

(マリア・フランシスカ)

～広報部からのお願い～



＜みんなの広場＞

信仰メッセージに限りません。日々の喜び・悲しみ・感謝、暮らしの中での気づき等、数行でけっこうです。原稿をお待ちしています。お気軽にご寄稿ください。

- ※ 毎月 15 日締め切りです。
- ※ 基本ご寄稿頂いた月に、到着順、洗礼名（ご希望の場合はフルネーム）で掲載します。紙面・編集の都合により、その月に掲載できない場合がございます。ご了承ください。
- ※ 洗礼名で掲載いたしますが、後日広報部からご連絡させて頂く必要があった時のため、提出原稿には必ず氏名・連絡先をご記入ください。



＜行事に関する報告・お知らせ・感想＞

随時受け付けております。特に行事に参加された方の感想をお待ちしております。こちらも数行でけっこうです。

また、「シリーズ忘れないで！東日本の被災地から」への原稿も募集しています。被災地でのボランティア活動に限らず、遠く神戸からの支援活動や被災地への思い等をお寄せください。

＜推薦図書・映画・DVD＞

教会員の方々と分かち合いたい図書・映像などの紹介や、皆様の感想文をお待ちしております。図書室に在る本やDVDでも、また無いものでも構いません。後日ご連絡させて頂く必要があった時のため、提出原稿には必ず氏名・連絡先をご記入ください。

原稿提出先： ①教会事務受付
②教会 Fax078-851-9023
③E-mail: renraku@rokko-catholic.jp

教会報 3月号の発行は、3月1日(日)です。 編集会議 2月22日(日)です。 記事原稿は、2月15日(日)正午までに信徒会館受付へご提出願います。 (広報部) http://www.rokko-catholic.jp	カ ト リ ッ ク 六 甲 教 会
	〒657-0061 神戸市灘区赤松町 3-1-21
	電 話 078-851-2846
	F A X 078-851-9023
	発行責任者 アルフレド・セゴビア
	編 集 広 報 部